

2020 ADAC TOTAL 24h-Rennen



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

◆予選（9月24&25日）

今年は新型コロナウイルスの影響で開催時期が9月に変更となり、参加台数も例年なら150台以上のところ今回は97台といつもより寂しいものの、この地に再び来られてレースが出来る嬉しさを実感しながら予選に臨みました。

予選は3回あり、ベストタイムが予選結果となります。ただし4名ともタイムを2周記録しなければならない規定になっています。順番としてはアンディー選手、自分、そして朝日選手と順で最初の予選をスタートします。

今年から TOYO TIRES との参戦となった NOVEL チーム、今回持ち込んだ NEW スペックのスリックタイヤのミディアムハードをアンディー選手がテストしながらアタック。

ニュルブルクリンクの主任インストラクターも務めるアンディー選手は、まさにコースを知り尽くしているさすがの走りで9分13秒を記録します。

次に自分が乗り込みます。

一年半ぶりのニュルブルクリンクのコース、そして初ドライブのスーパーなので、まずはコースの感覚を思い出しながらマシンを知っていくことに努めました。

この予選は自分の乗る時間は2周しか無いので、タイムはアンディー選手が出していますし自分は決勝までに自分のスピードを仕上げていく組み立てをしていました。

シミュレーターでかなりやってきたのですが、やはり実際はコースの跳ねなどマシンの足回りによっても違うので、その辺の感覚とスピード感、マシン特性によるギャップの拾い方などをしっかり自分の感覚に刷り込んでいくように1周目を終えました。

このコースは本当にクラッシュと隣り合わせです。

しかしながら少ない時間しか無いのとマシンを労わるのも当然なので、クラッシュはご法度です。

まずは安全マージンをしっかりと持ちながらかなり抑えて走っていたので最初は9分54秒でした。

2周目は少しペースを上げました。

1周目よりはマシンとコースと自分のリンクが少し重なるようになりましたが、まだまだ様子見です。

この周は速度制限の区間も出てしまい、結局タイムは9分53秒と変わりませんでしたが、1周目よりは手応え良く終われました。

おそらくクリアで走っていたら9分30秒~40秒の間くらいだったと思います。今回は無観客ということで、いつもギャラリーで賑わっているコーナーも人が全くいないので、走りながら寂しくも感じました。



二回目の予選は24日の夜にナイトセッションでの予選となります。タイヤの耐久性も見るために先程のミディアムハードをそのまま使い、ティシューナー選手がまずコースへ出て2周計測します。そしてアンディー選手へと交代し、今度はハードの方のタイヤを装着しコースへ。

ここからはアンディー選手、自分、朝日選手と1周ずつの計測です。

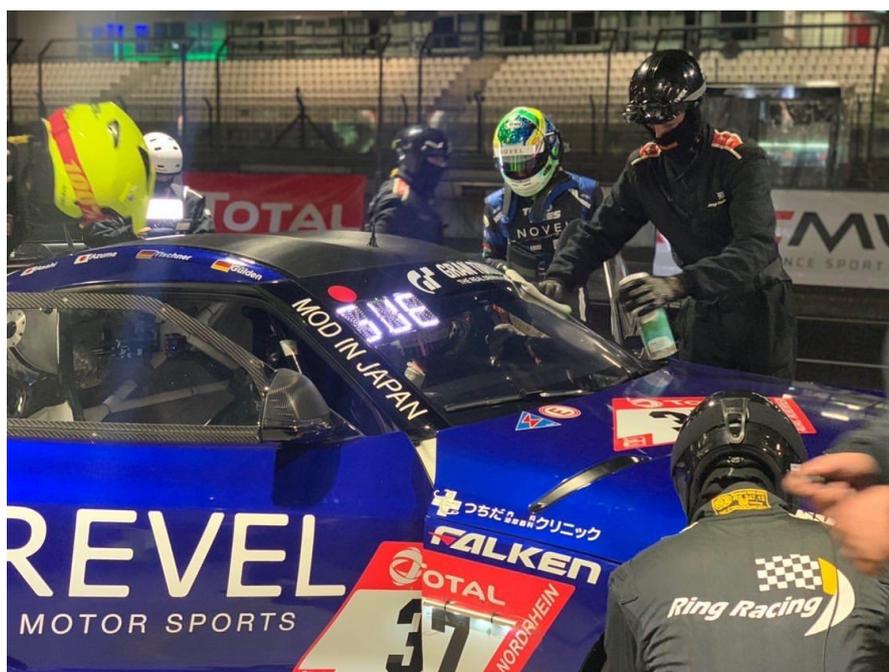
このセッションも1周のみなので、タイヤによる動きの違いの確認と、夜間走行の視界の確認をメインに、行けるところは最初のセッションよりもペースを上げていきました。

しかし、ここでも高速区間の長い区間で速度制限となってしまいました。

自分が10分20秒、朝日選手も10分25秒で無事に初日を終わりました。

スープラはヘッドライトが非常に明るく感じました。

また、ハードコンパウンドのタイヤはミディアムに比べて少しオーバーステアが強くなるので、バランス的にもミディアムの方がフィーリングは良く感じました。



そして翌日に三回目の予選となります。

この予選は日中ですが、この日はあいにくの雨となりました。

また、時間が1時間しか無いため、今年初めからタイヤテストもしてきた朝日選手がレインタイヤ3セットのテストをメインに走ることになりました。

自分は乗ることなくこの予選を見守り、結局予選のベストタイムは一回目の予選にアンディー選手の記録したタイムでクラス3位、総合53位で予選を終えました。

予選結果：クラス3位（総合53位）



◆決勝（9月26&27日）

TOYO TIRES は久しぶりの、そしてスープラは初の24時間レースを迎えます。

決勝は朝からあいにくの天候で、ウェットでのスタートとなりました。

順番はアンディー選手、ティシュナー選手、自分、そしてRCFとダブルエントリーの朝日選手の順番となります。

スタートのアンディー選手はここでもさすがの走りで、クラス1位までポジションを上げ、順調に周回していきます。

そして順調にティシュナー選手へ交代。

ベテランのティシュナー選手も危なげない走りで走行し、ピットの関係などもあってクラス3位で自分が乗り込みました。



自分がコースインすると、路面はハーフウェットになってきていました。しかしながらまだ濡れている個所も多く、ノルドシュライフェに入ってすぐのコーナーからはオイルの跡がしばらく続いていたので、慎重に走りました。

1, 2周様子を見て徐々にペースを上げていきます。

しかし路面も次第に乾いてきていたので、ペースを上げつつもレインタイヤの

マネージメントをしながら、タイヤのブロックを傷めないよう横方向には負荷をかけないようにして走行しました。



しかも途中からナイトセッションへ突入し、完全に夜間走行に。

すると途中から山側を中心に霧が出てきます。

たださえ夜間走行で視界が狭くなる中、霧は山側の高速域に入るところでアップダウンもあり見切りも悪いところでしたので、その部分は少し減速もしながらとにかくレースも序盤ですし安全に行きました。



今度はその数周後に雨が降り始めます。
しかもいきなり強くなり、次の周にはコースの前半部分にも降ってきて全体的にウェットに変わりました。
いきなり路面もスリッピーになり、高速区間でもリアが抜けたりして何度か冷や汗をかくシーンもあつたくらいです。
ナイトセッションでの霧と雨は、とにかく神経を使うステイントでしたが、燃費も良かったので予定より多く周回し、9周走ってピットへ。
約1時間45分乗って朝日選手へと交代しました。



順調にナイトセッションへと入っていったのですが、更に雨脚も強くなり非常に難しいコンディションとなっていく今年の24時間レース。
ここで初24時間の朝日選手が激しくなった雨により、不運にもクラッシュしてしまいます。
何とかピットへは戻ってくる事が出来たのですが、マシンはフロントとリアに大きなダメージを負ってしまいました。
しかしながら朝日選手に怪我が無かったことが幸いでした。
誰もが大きく戦線離脱かと思った矢先、この雨量が危険と判断され、レースは赤旗中断に。
この赤旗は結局朝の8時まで続き、約9時間近くレースがストップしました。

我々にとっては逆に救われた赤旗となり、この長い中断のお陰のマシンの復旧が出来たのです。

夜通し作業してくれて間に合わせてくれたメカニックさんたちにも本当に感謝です。

そしてこの長い中断で、自分も次のスティントに向けてしっかりと寝ることが出来ました。



無事に復活したマシンは赤旗再開後からクラス 3 位のまましっかりと走り出すことが出来ました。

ここからまた最初と同じ順番でアンディー選手からレインタイヤでスタートしました。

タイムを見る限りマシンは完全に直っていそうで、順調にティシュナー選手へと交代していきます。

そして路面がまた乾いていく方向でした。

ハーフウェットで微妙な路面になってきていましたが、まだレインタイヤのまま自分に交代します。



このスティントは路面が思っていたよりもどんどん乾いていきました。レインタイヤなのでマネージメントしながら傷めないように走行していましたが、高速区間ではタイヤの振動も大きくなってきて、コーナーではタイヤのブロックがよれてペースも上げられないので、無線でスリックに交換したいとチームに伝え、予定より早くピットに戻ることにしました。

ここで初めて今回の決勝、スリックを履くことに。再びアンディー選手へと交代しました。やはりスリックに交換したらペースが一気に上がりました。



しかし次の朝日選手のときには再び雨が降り始めてまたしてもレインタイヤへと交換となります。

しかもスリックで朝日選手がコースインした周に雨が強くなり、結局その周に戻ってレインタイヤへと交換になってしまいました。

しかしながらその後は順調で、規定周回数の関係で最後の1周で自分に交代し、この荒れたレースを見事3位で完走することが出来ました。

決勝結果：クラス3位（総合39位）



◆反省

今回はコロナウィルスの影響で事前の VLN シリーズにも行けず、本当にレース自体が久しぶりでしたが、少ない走行時間の中で適応出来たとは思いません。

今回は本当にコンディション変化も様々で、一つとして同じコンディションで走れず、予選はマシンに慣れていくこととコースの感覚を思い出すことに専念、そしてレースは毎回違うコンディションとタイヤのマネージメントで、我慢の走りが多かったように思います。

ステイントな中で少しずつペースを上げていったりもしましたが、結局すぐ路面コンディションが変わっていたので、本当に難しかったです。

ドライでしっかり攻め込んで走りたかったですが、今回はいろんな意味で経験値がまた大きく増えました。

自分自身をコントロールし、しっかり走りきれたことは自信にもなりますし、また今後のレースに活かしていきたいと思います。

やはりこのニュルブルクリンクという舞台は、普段のレースの何倍もの経験が出来て、チャレンジングで難しいレースだと改めて感じました。



◆最後に

今年は新型コロナウイルスの影響で世界的に大きな影響が出ている中、こうやってニュルブルクリンク 24 時間レースが開催されて出場出来たこと、そしてその中で応援してくださったスポンサーの皆様、そして出場にあたって大変多くのご支援ご声援、本当に有難うございました。

今回は無観客ということで走行していてもバーベキューの煙も、各コーナーに人影が無いのも非常に寂しく感じました。

エントリー台数も 100 台以下ということで、ピット裏の空きスペースなどを見ると、やはり今年の世界的な影響を目の当たりにした感じがしました。

来年はここから全ての国がまたコロナに負けず復活していくことを願うばかりですし、自分もモータースポーツを通じて盛り上げていけたらと思います。レース自体もハードなコンディションでしたが、ここをしっかりと 3 位で完走出来たことは自分の中でも大きな自信になりました。

そして改めて、ここでのレースは自分のキャリアの中で一番内容の濃いチャレンジングなレースだと感じます。

国内のどこのサーキットよりもスリリングであり、自分を試し、成長させる事の出来るこのニュルブルクリンク 24 時間に、是非来年も挑戦したいと思います。

これからも日々目標を持ち全力で頑張っていきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2020 年 10 月 5 日

東 徹次郎

